

雪氷写真館⑤ ラトヴィアの霜／Frosts at Latvia



写真 1.



写真 2.



写真 3.



写真 4.



写真 5.

(写真 1～5 はラトヴィアの写真家 Armands Pundurs が撮影・提供)



写真 6.

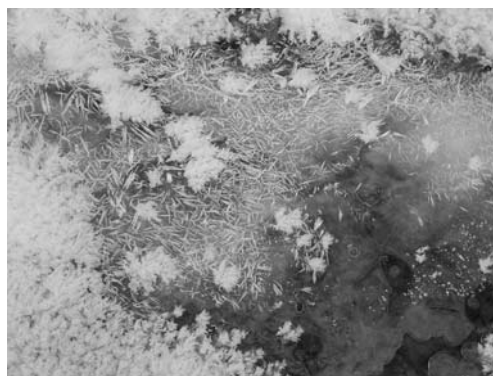


写真 7.

(写真 6・7 はラトヴィアの学芸員 Diana Meiere が撮影・提供)

ラトヴィアの霜

ラトヴィア共和国の首都リーガにある国立自然史博物館で、「雪と氷との対話」展が開催され、私も参加してきた(本号「滞在記」参照)。その時、ラトヴィアの学芸員から写真 1 を見せられて、私はその美しさに驚いた。

リーガの緯度は北緯 57° と高く、冬は寒い。この冬にも、気温が -30°C 以下まで下がり、学校が休校になる日があった。そこには、雪・氷・低温に関連するさまざまな現象があり、その一部を私は写真で見ることができた。その中で、特に印象が深かった霜の結晶について、撮影者の快諾を得たので紹介する。

写真 1 は、枯れたカモガヤの茎にできた樹枝状の霜が密生したものである。よく整った美しい霜だが、よく見ると、小枝が軸に対して 60° のものだけでなく、 90° のものも混じっている。写真 2 は、写真 1 と同じ時に撮ったもので、木の枝に着いた棒状(角柱状?)の霜である(撮影時の気温は $-5 \sim -8^{\circ}\text{C}$)。写真 3 は、これより低温(撮影時 -24°C)のとき、小動物が棲む穴の近くの雪面にできた霜だというのである。

写真 4 と写真 5 は一連のもので、気温などの条件は不明だが、写真 4 はトゲ状の霜である。写真 5 はそれが電線に着いたもので、電線着霜というべきか、あるいは着雪の表面にトゲ状霜が着いたものであろう。

写真 6 と写真 7 は、川が凍った氷の表面にできた霜(撮影時 -24°C)である。写真 6 は羽毛状で、写真 7 には針状の霜も沢山できている。写真 6 は「霜の花」(雪氷辞典)と呼ぶのがふさわしいと思うが、ラトヴィアの学芸員も frost flowers と言っていた。

神田健三 会員(中谷宇吉郎雪の科学館)